

“北摂人工関節懇話会を主催して”

7月18日に千里阪急ホテルにて近隣の公立病院や開業医の先生方に多数お集まり頂き、人工関節を中心とした研究会を主催する機会を得ました。高名な関西労災病院・副院長である大園健二先生に「最近の人工股関節の動向」についてご講演をお願いし、普段は外来を中心に診療をされている開業医の先生方にも、最新の知己を得られたとご好評でありました。

我々も、当人工関節センターの紹介をさせて頂き、各基幹病院の部長や開業医の先生方からの激励を受けて、身の引き締まる研究会となりました。

今後もこの様な研究会を中心として、近隣の病院や診療所の先生方とのネットワークを築き、人工関節のみならず最新の医療情報を学び、患者のみなさんに北摂の医療ネットワークと最新の医療を提供していきたいと考えています。



センター長の海外探訪記“ケニアの巻”

私は、学生時代からリュック一つの貧乏旅行が趣味です。昨年、3度目となるアフリカ大陸を旅してきました。

東アフリカで赤道の北にあるケニアは、数多くの動物保護区があり、私はマサイマラ国立公園を訪れました。雄大な眺望と多くの野生動物に心を癒されましたが、同時に母なるアフリカ大陸にも温暖化の影響は及んでおり、天候不順が近年問題視されている事には心が痛みました。

ケニアの主食はトウモロコシを蒸したウガリと云うマッシュポテトみたいな物です。ビールはタスカービールと云う日本人の口にも合う旨いビールがありますが、あちらでは黙って頼むと常温で出てくるので要注意！「コールド タスカー プリーズ！」と言って下さい。人懐っこいアフリカンが満面の笑みを浮かべて、冷たいビールを持ってきてくれますよ。



この新聞の名称「ぶらな」とは、仏教の元言語となるサンスクリット語で“空気”や“清浄な気”を示す言葉です。我々は、関節や脊椎疾患に負けずに積極的に人生を楽しんでいきたい！と考えている“強い気”を持つている方々を応援する為に、色々な形で情報を発信していこうと考えています。

こんな情報が欲しい、こんな事をして欲しい！など希望がありましたら、お気軽に「病院受付」か、ファックスでお伝えください。

「ぶらな」

“人生を積極的に生きる人を応援する医療情報誌”

相原病院人工関節センターの相原雅治と申します。当センターに来る前は、日本でも有数の人工関節手術数を誇る関西労災病院・整形外科の副部長として、人工関節を中心とした関節クリニックで7年間にわたり診療をしておりました。

当院の整形外科・リハビリテーション科部長の岡史朗先生とは、阪大整形外科医局の同期であり、約2年前から相原病院での人工関節の手術を一緒に行っていました。

関西労災病院に移る前は、市立豊中病院・整形外科で3年間の勤務経験もありますので、再び北摂の地に戻って来れたことは嬉しく思いますが、北摂は一部の公立病院をのぞき、人工関節の治療を専門にする病院が少ないため、脚が悪いにも関わらず、わざわざ大阪市内まで治療に行かれる方が多い地域でもあります。心もからだも元気であるのに、「脚が痛い」ことで、日々の生活に大きな支障があり困っていらっしゃる北摂の皆様は、地元でレベルの高い医療を提供しなければ・・・と少々身の引き締まる思いで、当センターに移ってまいりました。

まだまだ若輩ではありますが、人工関節手術の執刀数は1,000例を超え、携わった人工関節手術は2,500例以上となりますので、股関節・膝関節の痛みで困っていらっしゃる方は、お気軽にご相談ください。

本年4月1日より新たに「人工関節センター」が始動し、7月から本格稼働しました。

昨年の相原病院の人工股関節と人工膝関節の手術数は、64例と近隣の公立病院と比べても遜色の無い手術数を行いました。これからは更に人工関節に特化した手術とリハビリを行える北摂でも数少ない施設になれるように切磋琢磨してまいります。

日々の生活で、膝や脚の付け根にあたる股関節の痛みにお悩みの方々は、お気軽にご相談ください。



相原病院・人工関節センター新聞
創刊号

2009年8月1日



相原 雅治(あいはらまさきはる)

平成6年神戸大学卒業
日本整形外科学会・専門医
日本リハビリテーション学会会員
日本人工関節学会会員
日本股関節学会会員
日本リウマチ学会会員
日本感染症学会会員

国立大阪病院にて研修を始め、NTT西日本病院、市立貝塚病院、市立豊中病院を経て、前職は関西労災病院整形外科・副部長として人工関節を専門に診療

近隣病院の
人工関節手術数
(平成19年度)

病院名	症例数
相原病院	51
(平成20年度)	64
箕面市立病院	26
ガラシア病院	75
市立豊中病院	158
国立刀根山病院	24
市立池田病院	52
市立川西病院	30
市立伊丹病院	104
済生会千里病院	27
近畿中央病院	30
県立塚口病院	17
県立尼崎病院	70
宝塚市立病院	31

人工関節に特化した「人工関節センター」と乳がん診療に特化した「プレストセンター」を開設しており、より高度な専門医療を提供しております。

整形外来：岡 史朗
関節外来：相原雅治
脊椎外来：加藤泰司
乳腺外来：相原智彦

水曜・金曜午前9時から12時
毎週火曜 午後4時半から7時

診察時間：平日午前9時から12時、午後4時半から7時
土曜午前9時から12時 (祝日休診)

相原病院・人工関節センター tel. 072-723-9000
箕面市牧落3-4-30 fax. 072-723-9052
ホームページ: <http://www.aiharahp.com/>

海外研修に参加して

看護師 福田 暁子

平成21年4月19日から25日まで、オランダとベルギーの病院を見学させていただくという研修に参加させていただきました。普段看護師として働いていると、院外研修や学会などで、他施設の内情を聞くことはできますが、実際に他の病院の手術室内部などを見学する機会はなかなかありません。

そんな中、今回初めての海外研修！そして、病院見学の中には、私自身一番やり甲斐を感じている手術看護の実際も見学できるということで、とても楽しみにしていました。

南部オランダでは、最も人工関節手術数が多い病院となるフランシスカス病院のスタッフの方々も、EUの中心・ベルギーのニコラス病院のスタッフの方々も、日本の小さな人工関節センターから来た私たちを温かく迎えてくださり、2施設で5件の人工関節手術を見学だけではなく、実際に手術介助にも入ることができました。

研修を通し感じたことは、手術室スタッフの専門性の高さでした。フランシスカス病院では看護師が手術の助手をしていたり、ニコラス病院では医師の専属看護師がいたり、チーム医療がより充実しており、スタッフ一人一人の高いプロ意識を感じました。

手術室看護師の役割は、患者さんが安全安楽に手術を受けられ、限られた時間の中で患者さんの回復に向かう力が最大限に発揮されるよう援助することにあります。

当院では、手術室専属のスタッフではなく、手術室スタッフは病棟そして外来業務を兼任しています。つまり、私達は患者さんの外来通院→入院→手術→リハビリ→退院→外来通院まで、一連の流れを全て看ている訳です。我々の人工関節センターだからこそできる看護を皆さんに提供できるよう、海外のスタッフに負けないうくらいに専門的知識と熟練した看護技術を全スタッフに伝達・指導していきたいと思ひます。

そして、関節や脊椎疾患に負けず人生を楽しんでいきたいという皆さんのお気持ちをサポートしていける様に、これからも頑張っていきたいと気合が入った研修となりました。



オランダのフランシスカス病院にて



《経歴》

平成10年 看護師免許取得
同年より7年間市立豊中病院手術室にて勤務
平成17年より3年間整形外科病棟にて勤務
平成20年より
相原病院手術室を中心に病棟・外来で勤務

阪神タイガースの自力優勝が消滅しました。ええ、それだけのことなんですけど……。尼崎の商店街もさすがにマジックナンバー表示を取りやめたとか。そらそうやわな……。最近では職場でもめっきり、いや、もはや、「阪神、調子悪いっすね」とさえ言われることもなく、そう言えばメンチって何してるのかな？とふと思う。ので、調べてみたら、近日中に帰国するらしい……。何でもワイフが出産だとか。こらっ！

知ってる人は知っていますが、阪神は**ダメ外人**の宝庫なんですよ、伝統的に。(フォード、マース、マイヤーズ、キンケード、ハートキー、クールボー、シークリスト……) そのダメ外人のなかでもブッチぎりのクリーンナップど真ん中は、**ロブ・ディーア**と**マイク・グリーンウェル**でしょう。調べてみると、ディーアは1994年の入団、メジャーで226本の本塁打を放った強打者として鳴り物入りで阪神へ。当時の年俸は破格の2億7千万円だったとか。安芸キャンプで場外ホームランを連発し、あまりの飛距離に外野場外に弾よけの、通称ディーアネットを増設したことは有名。しかし、シーズンが始まると、外角低めの変化球に全くついていけず、.396という驚異の三振率と、.151という信じがたい打率を残し、あえなくシーズン途中で退団になったのでした。ちなみに彼のメジャー時代の特筆すべき記録として、1991年に、規定打席到達打者として、1901年以降のメジャーリーグ歴代最低打率.179 を残し、生涯通算三振率.363は堂々のメジャー歴代1位とのことです。そう言えば、ディーアって“鹿”だよな、って当時大いに納得したものです。

あと、グリーンウェルですが、こいつも凄い。1997年入団、ミスターレッドソックスの愛称 はあまりにも有名。年俸3億円、メジャー通算打率.303を引っ提げて(たぶんディーアで学んだな)、堂々の移籍だったが、**キャンプの途中で背中が痛い**と言い出し帰国、ようやく試合に出場したのが5月3日、その8日後の5月11日、自打球を右足の甲に当て骨折(これも疑わしい)、「**野球を辞めろという神のお告げ**」という言葉を残し、一方的に引退を宣言、退団し帰国したのでした。当時のショート久慈選手の話では、レフトからの返球が**チェンジアップ**のようだった、と。こいつだけは絶対に許さん、個人的には。

しかし、調べてみれば、他球団にも珍外人、ダメ外人は珍しくはないらしく、中でも、西武ライオンズの前身の太平洋クラブ！には、**ハワード**というダメ外人がいて、漫画「あぶさん」の中では特大のホームランをかつ飛ばしたということになっているが、現実には移籍初打席で古傷の腰を痛め、そのまま退団……。太平洋クラブ！クラウンライター！ライオンズ、懐かしいなあ。真弓明信 現阪神監督はここから移籍して来たんですよね。

それはともかく、実はね、なんだか落ち着くんですよ、昨今のファンは怒っているのかもしれないけれど、優勝争いをしているタイガース、なんてねえ……。ここ数年のAクラス常連のタイガースの姿に、ちょっと違う……と違和感を感じていたあなた！ きっと、きっと正解です！



阪神ファン歴35年の割に全く大したお宝も保有していませんが、これだけは現存しているものは珍しいのでは？
1985年の優勝時に記念発売されたマイルドセブン、未開封です。次回に優勝した際に開けて吸おうと思ってとっておいたけど、それがあの暗黒時代を経て18年後になるなんて……もうタバコ、辞めてるし……